

察しポート in 熊本&鹿児島

9月26日 熊本県嘉島町
9月27日 鹿児島県南種子町

研修テーマ

9月26日

熊本県上益城郡嘉島町(かみましきぐんかしままち)
○熊本県及び嘉島町の地震被災の現状調査

9月27日

鹿児島県熊毛郡南種子町(くまげぐんみなみたねちょう)
○宇宙開発事業に関連した教育分野の現状調査



嘉島町

嘉島町を
視察して

総務経済委員長

渡邊一弘

9月26日と27日に熊本
県嘉島町と鹿児島県南種
子町を視察しました。

中部空港を8時5分に



嘉島町までの途中
益城町

出発し、熊本空港へ1時間20分程で着きました。空港から視察を受け入れていただいた嘉島町まではバスで移動しました。空港の周りでは震災の爪あとは感じられませんでした。バスが進むにつれ多くの家々がブルーシートで覆われているのを見てつらくなりました。40分程で嘉島町庁舎に着きました。庁舎内には足場が組まれていて補修の最中でした。そんな中視

議員行政視



地震及び被害の概要

○地震の概要

	発生日時	M _J -フィート	最大震度	嘉島町の震度
前震	4月14日 21:26	6.5	7	6弱
本震	4月16日 01:25	7.3	7	6強

○熊本地震発生以降の地震回数（9月14日15時現在、気象庁通報値）
 震度1以上の地震の発生回数：2,094回
 うち震度4以上の地震の発生回数：117回

○被害状況（9月14日熊本県災害警戒本部発表）

【人的被害】（単位：人）

	熊本県	嘉島町
死亡	106 (56)	4 (1)
行方不明	0	0
重傷	818	9
軽傷	1,432	—
合計	2,271	13

※（うち 災害関連死）

【家屋被害】（単位：棟）

	熊本県	嘉島町
全壊	8,176	272
半壊・大規模半壊	29,463	332
一部損壊	130,873	1,848
合計	168,512	2,452

※嘉島町の棟数は1次調査結果

○避難状況

	熊本県		嘉島町	
	避難所数	避難者数	避難所数	避難者数
4月24日	591箇所	67,788人	11箇所	1,580人
8月30日	21箇所	840人	1箇所	40人
9月15日	13箇所	471人	—	—

※8月30日は避難所閉鎖の前日

○ライフライン

- ・電気：4月18日停電解消
- ・給水：全世帯が井水を使用しているため、停電解消後は回復
- ・下水道：使用可能

○公共施設等の被害状況

公共土木	4億円	道路延長 8,557m 3.6億円 河川延長 365m 4千万円
下水道施設	7億円	管渠 4,358m 5億円 浄化センター等施設 2億円
農業施設	6.6億円	農地及び農業施設（水路、農道等）
文教施設	4億円	小中学校3校、幼稚園、給食センター
その他	4億円	庁舎、町民会館等
合計	25.6億円	

人口・世帯数の変動

3月31日現在 人口 9,195人 世帯数 3,411世帯
 8月31日現在 人口 9,135人 世帯数 3,382世帯

増減 △60人 △29世帯

察を受け入れてくださった嘉島町に感謝しました。嘉島町は熊本市の南に隣接し、四方を川に囲まれ町内に湧き水が点在する水の郷です。震災の話において、各戸に生活用の井戸があり電気さえ復旧

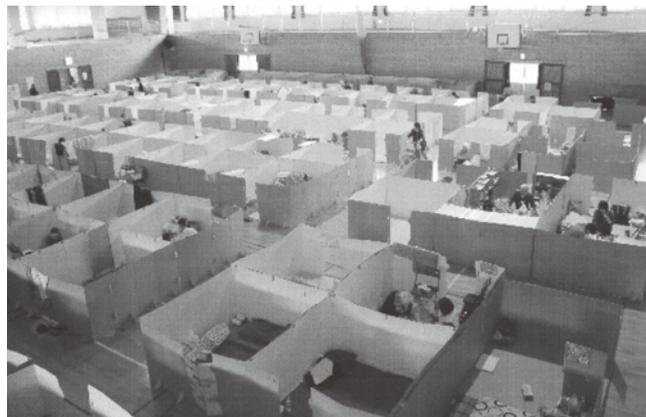
すれば水の心配はないと
 のことで、事実震災から
 4日で電気が復旧したた
 めよかったとのことでした。

死者4人、重傷者9人、
 家屋全壊272棟、半壊
 332棟、一部損壊18

48棟、4月24日の避難
 者数1580人とのこと
 でした。仮設住宅は20
 8戸建設して8月上旬に



上:平成28年4月20日撮影の倒れた家屋
 下:平成28年4月28日撮影の町民体育館





1階がくずれ、キャンピングカーで
かろうじて支えられている

しました。

午後は熊本城に行きま
した。遠目に壊れた石垣
や城を見て震災の凄さを
改めて感じました。翌日
は朝7時にホテルを出発
し、南種子町へ行き、種
子島宇宙センター、広田
遺跡等を回り帰りました。

入居が完了したとのこと
でした。町には西日本最
大級のイオンとサントリ
ーの工場があり、災害応
援協力を結んでいたため
備蓄品は少なかったとの
ことで、14日の震災から
で、16日は不足したが17
日以降は救援物資が届き、
よかったとのことでした。
最後の町長の言葉の中
で仮設住宅用の土地とガ
レキの捨て場の確保はし
ておいたほうがよいとの
ことでした。飛鳥でも確
保・指定はしておくべき
だと考えました。
最後に1日も早い復旧
復興を願う嘉島町を後に



瓦が落ち石垣がくずれた熊本城

南種子町

ドキュメント 南種子町

文教厚生委員長

鈴木康祐

種子島の南種子町に表
敬訪問をかねて、広田遺
跡、観光物産館「トシミ
ー市場」、宇宙留学生制度、
古代赤米栽培、そして今
回友好自治体提携、ロケ
ットパートナーシップ宣
言のきっかけとなった、

種子島宇宙センターを訪
れ「宇宙開発事業に関し
た教育分野の現状調査」

広田遺跡



の行政視察をしてしまし
た。

広田遺跡では、弥生時
代末期〜古代にかけての
人々の埋葬墓から、当時
の生活様式を調査してい
くうちに、遺跡は国史跡
出土品は重要文化財とし
ての価値のあるものと認
められました。南種子町
の人々がこの史跡を誇り
に思っているのは、みな
が平等に埋葬され、普段
の生活では大型巻貝で作
られた腕輪、竜佩形貝製
垂飾、幾何学文の貝符
などさまざまな貝のアク
セサリーを一人の人が10
キロも身にまとっていた
貝文化に、感銘を受けて
のことだと感じました。
観光物産館は、飛鳥議

南種子町の概況

本町は、種子島の南端に位置し東南西の三方が海に面し、北は中種子町を境に総面積110.36km²で、鹿児島市までは海を隔てて150km余りである。地勢は、起伏の多い丘陵地帯で中央は海拔200m、中央から西部にかけては、畑地が広がり、東部は河川が多くその流域に水田が開けている。

気候は、年間を通して暖かく、降雪は3〜4回程度、亜熱帯的気候で、降雨量はかなり多い。また、台風常襲地帯で年数回来襲し、冬期は北西の季節風が強い。

昔は、鉄砲伝来の地として、今は実用衛星基地、宇宙に一番近い町「ロケットの町」として、その名を広めている。

基幹産業は農業であり、普通作(糠粉用甘藷、さとうきび、水稲)を中心に、畜産、園芸、花卉、果樹、茶などが栽培されている。

〔平成28年8月末〕

人口 5,797人 (男 2,859人・女 2,938人)

世帯数 2,983戸

財政 平成27年度決算額

一般会計予算

(歳入) 4,956,170千円

(歳出) 4,897,628千円

財政力指数 0.25%

実質公債費比率 11.7%

将来負担比率 66.8%

「南種子町議会の概要」より



トシミ市場

会からも要望のある産直市場であり、町の活性化・地産地消・生産者の所得向上を目的として設立、運営がされています。私が今回南種子町を訪れた。私が今回南種子町を訪れた。糖製品が所狭しと並べられて感動したのが、道路の両脇に続く農地が何処まで行っても見渡す限り、安納芋とサトウキビで市場では安納芋、黒砂糖製品が所狭しと並べら



歴史と文化と科学の町
ようこそ みなみたちね
Welcome to Minamitan Town
静止気象観測所 99号
11月1日(火)

れ、議員の方も栽培しているドラゴンフルーツなど多くの産品が売られ、昨年はあと少しで目標である1億円近くの売り上げがあったそうです。宇宙留學生制度は、面積が飛鳥村の5倍の町に6000人が暮らす町で小学校8校のクラスで複式学級の解消、教育の相乗効果、地域活性化を図る目的で平成8年より始められました。里親留学、家族留学、親戚留学の3タイプがあり総勢627人の受け入れをしていますが、今では40人の募集に100人近い応募があるとのことでした。古代米栽培は、「たねがしま赤米館」の隣の「宝満神社」の神事に地域の人々が大切に伝承されて来ましたが、今では栄養価が見直され産直市の人気商品となっています。最後にJAXAを見学させていただいたのですが、2020年に打ち上げの予定がされているH3ロケットに向け期待の高まる産業が、愛知県の飛鳥村などを製造拠点としてこの南種子町で宇宙向け打ち上げられる関係がますます発展することをお互いの議員が確認して、帰宅の途につきました。



JAXA

南種子町教育委員会
宇宙留學関係資料

1 はじめに
本町は、鹿児島市から南を隔てて、15.2kmの距離にあり、古くは鉄砲伝来の地として有名です。日本唯一の実用衛星打ち上げ施設があり、「宇宙が一番近いまち」として知られています。少子高齢化で児童数が減少する中、複式学級の解消・教育の相乗効果・地域活性化を図る目的で、平成8年度に山村留學制度を立ち上げました。楽しい自然と歴史や科学の恵みを、全国の子どもたちと分かち合いたい。『宇宙留學』という名の山村留學を実施しています。対象は小学校2年生から6年生までで、留學期間は1年間であり、小学4年生以上であれば日本宇宙少年団南種子町科学分団に入団できます。子どもたちは、『宇宙留學』で人間の宇宙への具体的な取組と豊かな大自然を体験し、かつ親元から離れることで自立心を養うことができ、子どもたちを預かる里親・学校・地域との関わりを通して豊かな人間性を買んでいます。町としても地域の活性化に役立つとともに、異なった環境で育った子どもたちが留學することで教育の相乗効果として大きな役割があります。留學生は、通常の学習に加え、種子島小飛行、ロケット打ち上げの観望、ウミガメ放流、ボンカン釣り等が体験できることになっています。

2 宇宙留學生の申込状況 (別紙参照)
(1) 宇宙留學生出身地別集計 (平成28年度からスタート) 平成28年3月31日現在
応募者数 11,335人
受け入れ人数 627人
(2) 学校別宇宙留學生数・里親数一覧
里親の人数 377人

3 留學制度導入の目的
南種子町宇宙留學制度実施要綱 (別紙参照)
第1条
南種子町宇宙留學制度 (以下『宇宙留學制度』という。)は、南種子町内の小学校に転学等を希望する児童に対し、町内の受け入れ里親者 (以下、『里親』という。)や各実行委員会の協力を得て受け入れを実施し、南種子町の豊かな自然の中で様々な体験活動を通しての身に健康な児童の育成を図ることを目的とする。
複式解消、教育の相乗効果、道路の活性化

4 宇宙留學の事業について
(1) 里親留學 (小学校2年生から6年生までの児童)
南種子町が選定する里親のもとで留學を行う。
(2) 家族留學 (小学校1年生から6年生までの児童) ★新規事業
南種子町内の住宅に家族で転居し留學を行う。住宅については宇宙留學協議会事務局が指定する。
(3) 親戚留學 (小学校1年生から6年生までの児童) ★新規事業
南種子町内の親戚 (3親等以内) のもとで留學を行う。

5 運営の組織と町の助成
(1) 組織
南種子町
↓
南種子町教育委員会
↓
南種子町宇宙留學連絡協議会
↓
校区実行委員会
↓
里親
↓
学校

(2) 町からの助成
○留學生1人4万円・・平成28年度より (4万円×12月=48万円)
○宇宙留學連絡協議会への補助金 1,041,000円
(留學生1人当たり 25,400円×41名)
(各実行委員会への助成・各事業費)

6 南種子町の宇宙留學制度が全国的に認知されている理由
(1) 留學制度の組織が充実している。
(2) 行政、町民の制度的支援がある。
(3) 豊かな自然がある。
(4) 宇宙開発基地・ロケット発射場がある。(宇宙留學というテーマ)

7 募集方法及び募集期間
(1) 各都道府県の教育委員会へポスター・募集要項を送付依頼する。また、全国各地に募集要項を掲載 (無料) する。
(2) 募集期間は、9月1日から10月31日までの2か月間

8 選考決定について
選考は、原則先着順であるが、実行委員会ごと (受入れ) に学年別・男女比などの学級編制を考慮して決定する。

9 経費について
留學生1人につき、月8万円 (町から4万円・里親4万円) が里親へ支給される。ただし、給食費・教材費・小遣い等は里親の負担となる。

JAXA
係がますます発展することをお互いの議員が確認して、帰宅の途につきました。
種子島についてから、南種子町の皆さんに熱烈

な歓迎を受けたことを村民の皆さんに報告すると同時に、南種子町の人々にお礼を申し上げます。